

工事施工中における第三者の安全確保

地区名	袋井地区
会社名	(株)大浜中村組
氏名	現場代理人 染葉智広
技術者番号	00156782

①はじめに

工事名	平成30年度農道整備（一般・農道保全）古谷地区舗装1工事		
工事場所	菊川市 古谷 地内		
工期	平成30年9月26日～平成31年2月28日		
発注者	静岡県中遠農林事務所		
工事概要	農道改良工	施工延長	1396m
		舗装版破碎	9072m ²
		路上再生路盤工	4858m ²
		表層	9072m ²
		区画線工	1式

古谷農道は、完成後15年以上が経過し、舗装の老朽化、ひび割れ、路面の沈下等が発生しており、農産物の安全な輸送と一般交通の安全確保に支障が生じている。このため、舗装の打ち替えを行い、施設の保全及び、通行車両の安全確保を図ることを目的とするものである。

工事箇所



②本工事の問題点

- 現場は縦断勾配が4%~7%でカーブが連続する山間部の道路である。
本工事の問題点は、当初設計されている路上再生路盤工4858m²について、施工期間中の3週間程度が路盤開放となる。この間、スリップ事故や二輪車の横転事故の懸念が生じる。さらに、車両の通行による碎石の飛散、降雨によるポットホール及びわだち掘れが発生する。また、仮ラインも碎石の飛散により視認できなくなってしまう、一般車両が通行するには危険な状態となることがわかった。

標準断面図



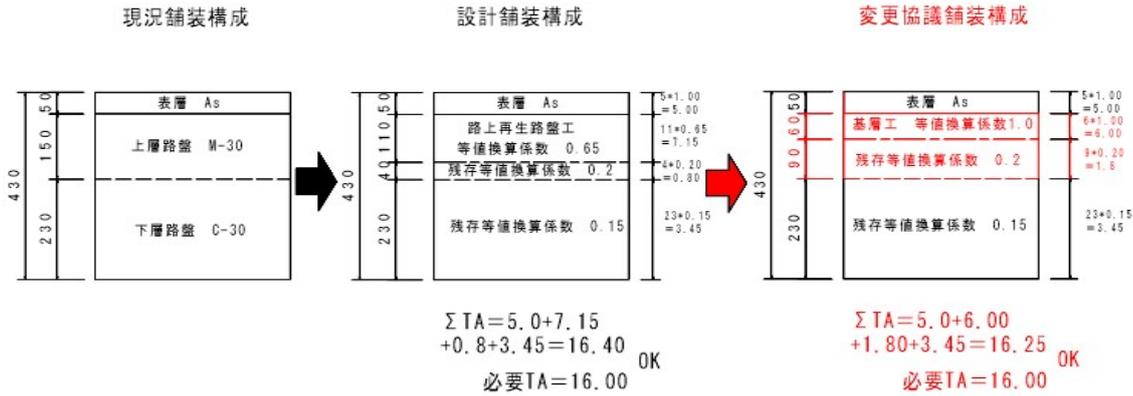
着手前写真



③対応策

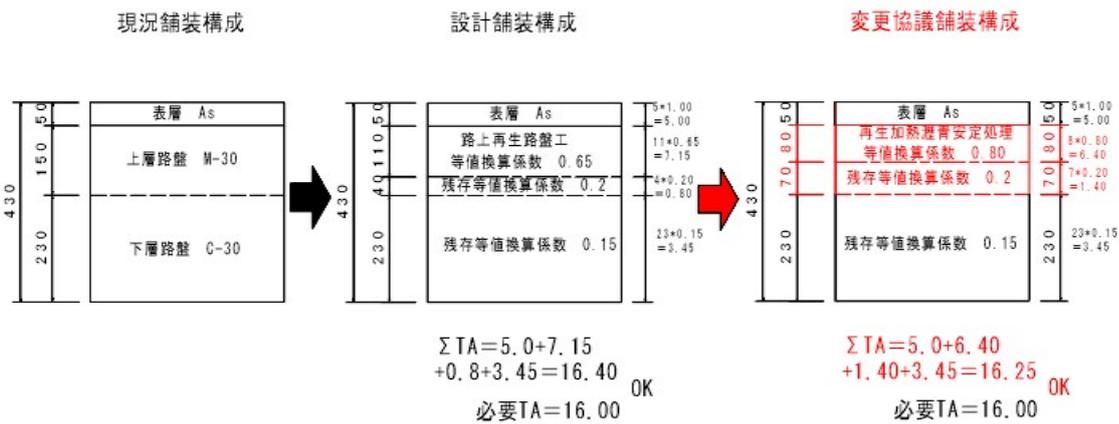
- 路盤開放では危険な状態となってしまうので、舗装面での開放を検討した。
必要TA=16.00を確保するために基層・レキ安の検討を行った。
基層の場合は、下層・上層路盤の残存部分のTAと表層のTAを考慮すると、基層厚6cmでTA=16.25となり、必要TAをクリアすることができる。

基層（再生粗粒）



レキ安の場合は、下層・上層路盤の残存部分のTAと表層のTAを考慮すると、レキ安厚8cmでTA=16.25となり、必要TAをクリアすることができる。

レキ安（再生加熱瀝青安定処理）



本工事は経済比較の結果、レキ安を採用した。

④結果

- ・ 舗装面での交通開放となったため、車両が通行しても安定した路面状態が確保できた。
- ・ 期間中に降雨があったが、わだち掘れやポットホール等のトラブルも無かった。
- ・ 仮ラインは明確に明示でき、夜間も安全に通行できた。

レキ安完成時



⑤おわりに

- ・本工事での課題であった一般車両の事故を防ぐことができたことは良かったと思うが、反省点は、変更協議をしたが認めてもらえず施工承諾としてレキ安を採用したため、経済的には課題が残る現場となってしまった。
今後は、安全はもとより、総合的な検討を行い、最も現場に合った施工方法を提案していきたい。